

〔ベンチを活用した切花用隔離栽培システムの構築〕
ポット栽培における鉢サイズの違いが切花形質・収量に与える影響
～スターチスと夏秋キクの検討～
板橋優人・大槻優華・吉原恵子
(園芸技術科)

【要 約】切花形質や収量等からスターチス「サンデーバイオレット」はポット栽培への適性が低い。夏秋キク「白こぶし」は3.5号鉢に比べて5号鉢でポット栽培への適性が高い。

【目 的】

2023年までに6品目で切花用ポット栽培での切花形質および収量等を明らかにした。本試験ではスターチスと夏秋キクを用いて複数の鉢サイズでポット栽培を行い、切花形質、収量への影響と、ポット栽培への適性を評価する。

【方 法】

1. スターチス「サンデーバイオレット」(2.5号ポット, 購入苗)を2023年10月17日にパイプハウスに1本定植した(ポット, 地植え)。3.5号区が27株/区, 5号区が18株/区とした。収穫調査は3輪開花時に行った。
2. 夏秋キク「白こぶし」(128穴セル, 購入苗)を2024年5月30日にパイプハウス(ポット)と露地(地植え)のそれぞれに定植した。3.5号区が40株/区, 5号区が24株/区とした。収穫調査は2輪開花時に行った。
3. 試験区は異なる鉢サイズの3.5号区, 5号区の2区とし, 参考として慣行的な地植え(反復無し)を実施した。鉢上げ用土は赤土:腐葉土:堆肥=5:4:1(容積比)の混合用土とし, 基肥は用土100Lあたり, 成分量でN=48g, P₂O₅=152g, K₂O=45g, 堆肥を2t/10aを施用した。試験区は栽培面積が同じになるように株数を設定した。栽培の全期間, 手灌水とした。追肥は表1および2(脚注)の通り施用した。

【成果の概要】

1. スターチスの到花日数は試験区間で差はみられなかった(表1)。切花形質は5号区が3.5号区に比べ全ての項目で値が大きくなり, 収量・観賞性評価は3.5号区より5号区で優れた。5号区は平均切花長が46.0cmで, 出荷規格(切花長45cm以上)を満たしたが, 出荷規格達成率は45.6%と下物割合が大きかったことから, 総合的にポット適性は低いと判断した(図1)。
2. 夏秋キクの到花日数は試験区間で差はみられなかった(表2)。切花形質は花径を除いて, 全ての項目で5号区が3.5号区に比べて値が大きくなった。収量・観賞性評価は5号区で優れた。出荷規格(切花長45cm以上)は両区満たしていた(図1)。以上より, 総合評価は収量や観賞性評価に優れる5号区を高評価とした。

【残された課題・成果の活用・留意点】

スターチスはポット適性が低く生育が弱い傾向にあるため, 今後適切な肥培・灌水管理を明らかにする。

表1 スターチスにおける鉢サイズの違いが切花形質と収量に与える影響

試験区	到花 日数 ^a	切花形質				採花 本数 (本/a)	出荷規格 達成率 ^b (%)	収量 ^c (本/a)	収穫 重量 (t/a)	観賞性 評価 ^d (点)
		切花長 (cm)	切花重 (g)	茎径 (mm)	分枝数 (本)					
3.5号	127	32.3	6.7	3.0	2.2	10,615	19.3	2,049	0.1	2.8
5号	126	46.0	11.8	3.6	3.5	10,564	45.6	4,817	0.2	3.9
t検定 ^e	ns	**	**	**	**					
地植え (参考)	132	122.3	174.1	10.7	9.5	5,052	100.0	5,052	1.1	3.0

注1) 地植えは株間・条間40cmの2条植えとし、株張が30cm以上になるまで花茎を取り除いた。ハウスは2023年11月14日から翌年2月5日まで10℃、5日以降は15℃とし、換気は20℃とした。注2) 追肥は次の通り：1回目11月8日、888化成1g/鉢、2回目2月9日、マイクロロング1g/鉢、3回目3月11日、プロミック中粒(6-9-9)1錠/鉢、4回目3月18日、I B化成、3.5号1錠/鉢、5号2錠/鉢。

a) 定植から開花まで b) 出荷規格の切花長45cmを満たす本数/収穫本数×100(%)で算出 c) 採花本数×出荷規格達成率で算出 d) 農林水産振興財団(事業課)職員を対象とし、5段階評価によるアンケート調査を実施。e) **は1%水準,*は5%水準で有意差あり。nsは有意差なし

表2 夏秋キクにおける鉢サイズの違いが切花形質と収量に与える影響

試験区	到花 日数 ^a	切花形質					採花 本数 (本/a)	出荷規格 達成率 ^c (%)	収量 ^d (本/a)	収穫 重量 (t/a)	観賞性 評価 ^e (点)
		切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 ^b (g)	茎径 (mm)	花径 (cm)					
3.5号	149	56.7	20.3	16.9	2.9	4.3	5,983	77.1	4,613	0.1	3.1
5号	149	71.2	42.3	32.3	3.4	4.1	6,667	94.9	6,327	0.3	3.7
t検定 ^f	ns	**	**	**	**	ns					
地植え (参考)	145	97.9	110.7	61.0	5.5	3.8	9,111	100.0	9,111	1.0	3.0

注1) 地植えは9215白黒マルチで行い、基肥として化成肥料(8-8-8)を50kg/10a、緩効性肥料(14-11-13)を50kg/10a、堆肥を2t/10a施用した。ポットと地植えいずれもピンチは6月7日に、整枝は3本になるよう6月27日に行った。ハウスの遮光は7月17日～9月27日まで行った。注2) 追肥は次の通り：1回目6月7日、オスモコート1g/鉢、2回目9月30日、プロミック小粒(5-10-10)1g/鉢、3回目10月3日、888化成1g/鉢、4回目10月18日、888化成2g/鉢。

a) 定植から開花まで b) 60cmに切り詰め、下葉1/4を除去 c) 出荷規格45cmを満たす本数/収穫本数×100(%)で導出採花本数×出荷規格達成率で算出 d) 採花本数×出荷規格達成率で導出 e) 農林水産振興財団(事業課)職員を対象とし、5段階評価によるアンケート調査を実施。f) **は1%水準,*は5%水準で有意差あり。nsは有意差なし



3.5号 5号

スターチス



3.5号 5号

夏秋キク

図1 鉢サイズの違いが草姿に与える影響

注) 図中の白線は基部から切花長45cm(出荷規格)を示す。